

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する 現地調査結果について(その4)

久永哲也*(1)・内田篤貴(1)・北川穂乃香(2)・佐々木哲朗(2)・小川典芳(2)・武村雅之(3)・都築充雄(3)
(1)日本物理探査株式会社 (2)中部電力株式会社 (3)名古屋大学減災連携研究センター

§ 1. はじめに

東海道の宿場町であった静岡県湖西市白須賀は、1707年の宝永地震津波の後、町全体が高台移転しているが、『白須賀町誌』によると旧白須賀宿の一部の家屋が流出したとされている。既往研究による評価では家屋が流失したという記録と、旧白須賀宿を通る旧東海道上の標高点(6.9m)とから、津波浸水高10mと想定されている(矢沼・他(2011))。

本報告では、白須賀および白須賀周辺の宝永地震による津波被害に関する調査結果を報告する。

§ 2. 白須賀における宝永地震の被害

旧白須賀宿の津波被害状況をより詳細に把握するため古社寺を中心に文献調査・現地調査を実施した。

『白須賀町誌』によると、宝永地震津波による旧白須賀宿の家屋の被害状況は流失家屋45軒、全潰51軒、半潰37軒とされている。この『白須賀町誌』の出版と考えられる、『湖西市史 資料編七』所収の「礼雲寺文書」について、旧地が旧白須賀宿である禮(礼)雲寺の前ご住職に伺った。

その結果、「礼雲寺文書」は旧白須賀町役場が収集していた史資料を禮雲寺の檀家らが回収し、まとめたものであったことがわかった。更に「礼雲寺文書」に翻刻文を付し、古老の話を追記して作成された『白須賀宿昔噺稿』という資料をご紹介いただいた。この資料中、宝永地震津波による旧白須賀宿と隣接する長谷村、境宿村の家屋の修復軒数について詳細に報告されており、「修復(中略)惣家数 三百七拾九軒 三ヶ村(白須賀宿・長谷村・境宿村) 内 五拾七軒 潰家 内 六軒ハ境宿村 百四拾壺軒流失 内 九拾六軒ハ長谷村分 三拾七軒 半潰家 百四拾四軒 小破家 内廿七軒ハ長谷村分」(下線部追記)との記録があった。総修復軒数から、境宿村と長谷村の軒数を除くと、旧白須賀宿で修復した家屋は250軒となる。『白須賀町誌』や『白須賀宿昔噺稿』に書かれているように、流出家屋が45軒であったとすると、旧白須賀宿の流失家屋は修復を要した総軒数の5分の1程度であったことがわかった。

旧地が旧白須賀宿である妙泰寺(旧地標高約9.0m)のご住職に聞き取りを行ったところ、宝永地震津波以前の棟札が現存していることが確認された。また、白須賀宿の歴史に関する展示施設「おんやど白須賀」の職員の方に聞き取りを行ったところ、旧白須賀宿にある字名「五軒町」(標高約7.8m)について、周辺の5

軒だけが宝永地震津波による流失を免れたことに由来するという伝承がある旨を伺った。

更に、白須賀の東に隣接する新居町浜名に位置する古社の恵比須神社(標高約5.8m)は、宝永地震津波以前の棟札や神号札を所有していること、神田神社(標高約8.8m)は、宝永地震津波の際、住民が神田神社に避難したとする伝承が確認された。

これらの調査結果から、宝永地震津波により旧白須賀宿で流出した家屋は修復を要した総軒数の一部であり、旧白須賀宿および白須賀周辺で流出被害を免れた箇所があることがわかった。

§ 3. 旧白須賀宿の地形と津波被害状況

宝永地震津波による旧白須賀宿の流出被害に関して、流出を免れたとされる五軒町を例に旧白須賀宿の地形との関係について検討を行った。

旧白須賀宿は東西方向に続く東海道沿いに建ち並んでいたとされ、現在も同位置に道路が通じている。現地では東西方向に波打つような高低差が確認され、国土地理院地図によるとその標高は6~10mであった。また、禮雲寺前ご住職より、「五軒町の辺りは、昔はもっと坂があり、バスを開通する際に不陸を埋めた。山から海へ流下していたかつての川が、水路等の形で面影として残っている」と伺った。流出を免れたとされる五軒町周辺の地形図を確認すると、五軒町の東西それぞれに、南北に流れる水路が確認され、その標高は現在でもやや低くなっていることがわかった。

前ご住職のお話に照らすと、五軒町の東西の川を遡上した津波によって川沿いの家屋が流失したが、川から離れた場所では流失を免れたと考えられる。

§ 4. まとめ

文献調査、現地調査より宝永地震津波による旧白須賀宿の流出被害は、修復が必要な全戸数の5分の1程度であること、旧白須賀宿には高低差があったことなどが確認された。このことから、全域で津波被害が生じたわけではなく、河川遡上等により旧白須賀宿の中でも標高の低い一部の箇所で津波被害が生じた可能性があることがわかった。

§ 5. 謝辞

調査に際し、ご協力いただきました禮雲寺の前ご住職、妙泰寺のご住職、ならびにおんやど白須賀の職員の方、郷土史家の森氏に深く感謝いたします。